



「まちのあかり」になる。

あたたかなあかりがともる家を見た時の、安心感のように。

なの花薬局は、地域の皆様を一番ちかくで見守り、

医療人として、人として、真に頼れる存在でありたい。





なの花薬局の理念

良質な医療インフラを創造し

生涯を見守る「まちのあかり」として

健やかな暮らしに貢献します

地域住民の健康を支えるグループとして、医療と生活の基盤を創造すること。

人々の暮らしと心に寄り添い、生きる喜びを支える存在として、いつもそこにいること。

住み慣れた場所で生涯安心して暮らせる「まちづくり」の一翼を担うこと。

すべては、地域の笑顔と未来のために。



なの花薬局 石見大田店

方言も、文化も、街並みも。

私たちは「この地域の一員である」ことを大事にしたい。



ただいま
おかえり
あたりまえの日常、
その喜びを
届けるために。

地方であっても、質の高い薬物治療を。
薬局長の提案から、
医師を軸にした多職種連携が活発に。

島根県のほぼ中央に位置する大田市。世界遺産「石見銀山」を有し、日本海と中国山脈に囲まれた人口3万3千人ほどの市の中心部に、なの花薬局石見大田店はある。高齢化と過疎化が著しい速度で進むこの地域で、大田圏唯一の「健康サポート薬局」「地域連携薬局」として地域住民を支えている。

地方であっても質の高い薬物治療を提供したい。その思いから、土屋薬局長自らが行動を起こし、患者さま対応と並行し多職種と連携することに力を入れている。そうした行動力の源は「この地域の一員である」という誇り。島根県出身ではなくても、この地域を知り、方言や文化を理解しようとする姿勢と、想いを組んだサポートが、患者さまとの距離を縮めている。



処方元の医師と
週次でカンファレンス



門前のクリニックは内科・神経内科・心療内科・漢方内科で、専門はパーキンソン病と認知症。県内屈指の漢方医でもある。医師との連携は土屋薬局長からの提案だった。毎週金曜、診療終了後の診察室でカンファレンスを行う。一週間の出来事や双方の依頼事を共有、トレーシングレポート持参で患者さまの対応を相談させていただく。片道40分をかけ、山間部などの医療過疎地へ往診同行することも。

地域の人みんなの
「かかりつけ」という意識で



病気や治療のことだけでなく、患者さまの生活環境や家族構成などをトータルに診ていくのが当たり前の地方の環境。石見大田店では「地域の人みんなのかかりつけ」という意識で患者さまをサポートしている。門前以外の医療機関から来局される患者さまも多く、薬剤師との会話を楽しみにしている方も。門前のクリニックと共催で「健康フェア」を実施、地域の健康増進にも取り組む。

食支援研究会、医療過疎地対策
多職種と積極的に連携



石見大田店は、高齢者の「食」や在宅生活を支えるために、健康寿命の延伸を目的とした「大田食支援研究会」に所属。医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養士、ケアマネジャーなどの多職種が集まり、月1回症例検証を行う。また、「健康サポート薬局」「地域連携薬局」として保健所や市役所からの依頼や相談を受け、医療過疎地対策や企業の抗原検査キットの準備など、地域の健康支援体制の一翼を担う。



幅広い経験が
できる環境。
成長し、
各地で還元したい。

なの花薬局 石見大田店
福武 亮太 Ryota Fukutake
2021年入社

人と接することが好きで、患者さまや地域など様々な人と関われる薬局薬剤師を志望しました。「広域勤務」を選択し、入社直後は滋賀県、2店舗目が現在の島根県です。1店舗目は内科・消化器内科の門前、今は総合病院や大学病院からの処方せんも応需し、門前では漢方薬の調剤もあるほか、在宅訪問では個人や施設の患者さまを担当。幅広い経験ができる環境にやりがいを感じています。以前、「ほちゅうえつきとう補中益気湯」という漢方薬の投薬の際、尿漏れに対して処方されていることを患者さまにご説明しました。ところが、ご帰宅後に患者さまがインターネットでお調べになり、「そんな効能はどこにも書いていない」と再来店されたのです。

処方元の医師は、県内屈指の漢方医。私から直接医師に確認すると、補中益気湯は妊婦の流産防止や膀胱症状に用いられ、筋肉を引き締める作用があると教えていただき、患者さまに丁寧にご説明することで納得いただきました。漢方薬の多岐にわたる作用の関係性を、医師から直接学べることは貴重な経験です。こうした医師との連携は、薬局長の積極的な働きかけがあってこそ。この環境に感謝しながら知見とスキルを身につけ、今は、どの地域でも対応できるジェネラリストになることが目標です。そして「広域勤務」の特性を活かし、薬局長から学んだことを全国の地域医療の質を高めることに還元したいです。



入社直後の配属は滋賀県

入社直後の配属は、滋賀県大津市、仰木の里店。まだ右も左もわからず、ピッキング→散剤、水剤、一包化→投薬の順に取り組んだ日々。毎日できることを一つずつ増やすことを目標にしていた時期。



入社半年後

半年後には、対物・対人業務ともに身につけ、店舗内の多くの仕事を任せてもらえるように。この頃から在宅訪問の患者さまを担当。先輩にアドバイスをいただきながら、契約段階から関わりました。



入社9ヵ月目で石見大田店へ

入社9ヵ月目、石見大田店に配属。滋賀も島根も縁のなかった土地ですが、新しい環境で働くことにワクワクしました。配属直後、出雲大社へ！方言・食・文化など、その土地の魅力に触れるのは楽しいです。



2年目になると…

調剤・投薬に加え、電話での服薬期間中のフォローや医師へのトレーニングレポートの提出、患者さまの入院時のお薬情報提出（薬薬連携）なども行っています。



医療安全ミーティング担当に

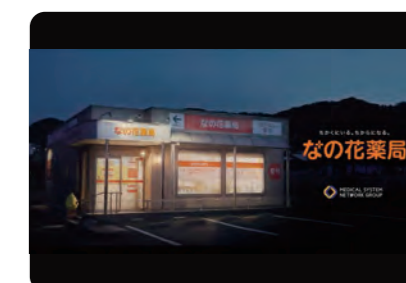
店舗の医療安全ミーティング担当として、報告書を作成・提出。また、全社で共有される医療安全に関する情報を店舗にフィードバックしています。自分から議題を挙げて話し合うなど、良い刺激を受けています。



心掛けていること

患者さまと談笑する時間をつくるようにしています。待合室で歩きづらそうにされているのを見かけてお声掛けすると、患者さまから体調に関して気になることを話してくださったことも。何気ない会話の中から大きな変化に気づける場合もあります。

TOPICS



私の勤務する石見大田店は、
実はなの花薬局CMのロケ地です！

知っていましたか？なの花薬局のCM(動画)「一人ひとりのあかり」篇の最後に登場する「まちのあかり」の店舗は、石見大田店です！撮影の舞台裏を見る貴重な体験ができました！

患者さまからの
「ありがとう」の言葉と、
薬剤師からの信頼が、
大きなやりがいに。

なの花薬局 石見大田店 医療事務
林 奈美 Nami Hayashi
2013年入社



医療事務の中でも薬局業務に特化したこの仕事は、薬剤の基礎知識など専門性の高いスキルが身に付くことや、患者さまと近い距離感でコミュニケーションできることが魅力だと感じています。待合室でのヒアリングや会計時に、患者さまが不安なことを話してくださると、信頼していただけているのだと喜びを感じます。お聞きした内容を薬剤師に正確に橋渡しすることも、私たちの大事な役目。患者さまから「ありがとう」と感謝の言葉をいただいた時は嬉しく、大きなやりがいを感じる瞬間です。なの花薬局は温かい雰囲気、薬剤師の皆さんが医療

事務を信頼してくださることも、やりがいにつながっています。また、仕事と家庭の両立ができ、安定的にプライベートの時間を確保できることも魅力。休日は、中学生の娘の部活の試合観戦に行ったり、母娘でショッピングを楽しんだりしています。薬剤を取り扱い、処方せん入力など大切なデータを作成・管理する私たちの仕事は、人々の「命」に関わる仕事。そのことを日々忘れずに、患者さまとのコミュニケーションを大切にすることで、ここが「かかりつけ」だと思っただけの地域薬局にしていきたいです。



受付・会計業務

来局された患者さまを最初に対応する医療事務は、いわば薬局の“顔”となる大切なポジション。患者さまから処方せんや保険証、おくすり手帳を受け取り、保険証の情報や処方せんの有効期限などを確認。薬代を受け取る会計業務も担当します。



待合室でのヒアリング

患者さまが問診票を記入される際に、不明点をサポートしたり、待合室でヒアリングを行うことも。薬の副作用やアレルギーの有無、また、薬剤師がより正確に症状を把握するためのフォロー業務。チームワーク意識やコミュニケーション能力も大切です。



処方レセコン入力業務

受け取った処方せん内容を、レセプトコンピュータに入力。薬剤ごとに規格があり、処方せんの内容を漏れなく正確に入力することやチェック作業も入念に行います。また、月次で行う調剤報酬明細書(レセプト)の作成・請求も重要な業務。



薬剤師への報告・相談

患者さまが薬剤師にお伝えし忘れたことや、患者さまの対応で気づいた点などを、薬剤師に報告・相談。また、医薬品の期限管理や納品時の検品・入庫も行い、必要事項を連絡します。対物・対人業務ともに薬剤師が円滑に業務できるようサポートします。



ピッキング・一包化補助

2019年4月より医療事務(調剤補助員)は、処方せんに記された薬剤を棚から取り出すピッキングや一包化の補助作業が可能です。薬剤師の指示のもと、医薬品を取り揃えたり一包化の錠数を確認する作業。正確性を求められる業務です。



OTCの管理・陳列など

店内で販売しているOTC医薬品・医療用品・健康食品などの商品管理も担当します。患者さまがお薬の待ち時間に興味を持っていただけるよう陳列を工夫したり、品出しをしたり。処方せんがなくてもご来局・ご購入しやすいよう接客業務も行います。



なの花薬局 登戸店

住み慣れた地域で自分らしく。

医療人として、人として、暮らしと人生に寄り添う存在へ。



顔を見るのが
楽しみだよ
頼れる、安心できる。
もう一人の
家族のように。

在宅訪問のエキスパート店舗。
“ご自宅”という環境下で、
いかに最善をご提案できるか考え抜く。

神奈川県川崎市多摩区。多摩川を挟み東京都に接するJR・小田急登戸駅から徒歩約5分の場所にある、なの花薬局登戸店。豊かな緑が点在するこのエリアは、駅から少し離れると閑静な住宅街が広がっている。外来業務と並行して登戸店が担当する在宅訪問件数は月に約200件。その約9割が、個人宅だ。依頼は、プライマリ・ケアの専門医で訪問診療に積極的な門前のクリニックをはじめ、多職種からの紹介により近隣の市立病院、医科大学附属病院の患者さまを担当。要介護認定の方から、小児の難病患者、がん終末期の方まで多岐にわたる。一人ひとり異なる症状や生活環境を目の前にして、どう最善を尽くすか。早川薬局長を中心とする薬剤師7名の熱量が、患者さまや多職種たちの心を動かしている。



興味分野を掘り下げ、
実務経験を積む機会を



24時間医療従事者が居る入院時の環境とは異なる自宅療養。薬剤管理によって少しでもご自宅での医療の質を上げたい、その想いで薬剤師たちは個別の症例を掘り下げ、勉強を続けている。関連分野の書籍や文献を調べたり、社内では各専門分野をテーマにした臨床系認証研修を実施。さらに、実務経験を重ねる中で興味のある分野が見つければ、担当の機会を与えてもらうなど、専門性を伸ばす環境づくりも進めている。

多職種との密な連携
すべては地域を知るために



「地域を知りたい」。早川薬局長は医師の往診同行や、近隣病院の研修募集に自ら手を挙げ参加。その実績から医師とのカルテ共有が実現し、確実な薬物治療の提供につながっている。また、多職種との情報共有はクラウドツールを活用、常時、全員が同じ情報を持って在宅訪問準備に取り組んでいる。退院時カンファレンスでは、病院の薬剤部と連携。退院後にスムーズに自宅療養に移行できる薬剤の提案などを行う。

患者さまとより近い距離感で
希望される看取りを叶えたい



末期のがんで余命1ヵ月と言われた40代の患者さまを担当。麻薬の注射を在宅で行うため、多職種と連携し週2回ずつ訪問した。主治医は2週間に1度だったため、患者さまとはより近い距離感で接することができた。そして、4ヵ月。亡くなられたことを、真っ先にご家族から連絡を受けたのは、薬剤師だった。主治医からは「熱心に向き合ってくれた」と言ってもらい、ご家族からは余命が延びたことに感謝いただいた。



患者さまの
生活環境や想いを
汲みながら
信頼を重ねる在宅に。

なの花薬局 新百合ヶ丘店 薬局長
荒川 夏織 Kaori Arakawa
2017年入社

学生時代から在宅医療に精通した薬剤師になりたいという思いがあり、黎明期から在宅訪問に力を入れている、なの花薬局への入社を決めました。入社後、希望通り在宅訪問の多い店舗に配属となり、求められるスキルを学びました。現在の店舗は呼吸器内科と皮膚科の門前で、外来から在宅訪問に移行するケースが少ない店舗です。しかし、登戸店から在宅訪問の紹介があり、それを契機に、医師から直接新規のご依頼をいただくようになりました。在宅訪問では、薬剤師の訪問に抵抗を感じる患者さまもいらっしゃいます。私は、他愛ない世間話から会話を重ね、患者さまのご希望や想いを汲み取るようにし、その上で薬剤師と

してお願いすべきことをお伝えしています。その甲斐あって「毎週来てくれるのありがたい」と言ってくれた時は、患者さまが信頼してくださっていることを感じて嬉しかったですね。また、糖尿病の患者さまの訪問では、登戸店の管理栄養士と連携。食生活や数値の改善に貢献でき、医師や多職種からも信頼を得ています。今は、薬局長に就いて1年半。まだ勉強の毎日ですが、かつて新人だった私に在宅経験の機会を与え、社内の在宅委員会に推薦してくれた上司の姿を思い出し、自分もそのような薬局長でありたいと思うように。最近では在宅医療を軸にしながら、後輩薬剤師の教育に注力するキャリアにも興味を持っています。



入社直後・北海道での新人研修

当時は集合型研修だったため、北海道札幌市にある宿泊研修施設で記念撮影。全国に広がる同期と親睦を深めながら医療人としてのマインドや社会人のマナーを学びました。



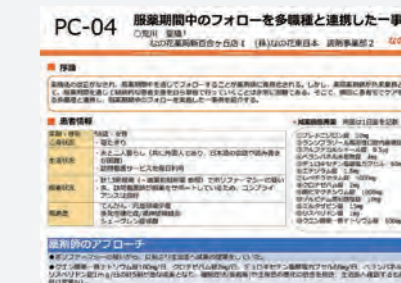
1年目・武蔵新城店

外来対応、薬剤の在庫管理などの業務と並行し、薬局長や先輩薬剤師が担当する高齢者施設・個人宅の在宅訪問を十数件ほど経験。間近でスキルを学びました。



2年目・在宅委員会に加入

当時の薬局長に掛け合い、社内の在宅委員会に推薦してもらいました。本来は4年目以降から加入できる委員会。若手のチャレンジや積極性を評価してくれる社風に感謝しています。



3年目・学会発表

服薬期間中のフォローが義務化される前に、コミュニケーション学会で在宅チームにて症例を発表。多職種との連携は在宅訪問に不可欠であり、他の薬剤師の関心も高く、様々な質問を受けました。



3～4年目・地域の健康イベント

2年目5月から現在の新百合ヶ丘店に異動(2021年～同店薬局長)。3～4年目は「健康サポート薬局」認定の取り組みとして、地域包括ケアセンターからの依頼を受け、健康イベントを企画・開催。地域の皆様にお薬の飲み合わせや、おくすり手帳の必要性などを講演させていただきました。

TOPICS



同期の絆! 何でも話せる仲です!

同期とは仲がよく、産休・育休を取得中の仲間もいます。横浜浦舟店の薬局長の同期は、今も毎日連絡を取り合うほど。何でも話せる同期がいるのは心強いです。

なの花薬局 北大前店

地域薬局は、ゲートキーパー。
専門性を深化させ、病院と患者さまをつなぐ架け橋に。



あなたに
話して
よかった
不安を和らげ、
前向きな気持ちに
なれるように。

外来がん患者さまの体調変化を
細やかに聞き取る。受診と受診の間を
支えるのは、薬局薬剤師だ。

北海道札幌市。臨床研究中核病院として先進的な医療を提供する全国屈指の医療施設の一つ、北海道大学病院。その正門の目の前に立つのが、なの花薬局北大前店だ。来局患者さまの約4割が、がん患者である。他にも道内各地から北大病院でしか受けられない治療を求める患者さまが大半を占めており、重篤かつ特殊な疾患の処方内容に接するため、高度な知識と経験が求められる。がん領域、循環器領域など薬剤師はそれぞれが得意分野を持ち、難しい局面も互いに知識を補い合いながら対応する。そこには、一つの想いがある。「薬局を出たら患者さまは日常生活に戻る。地域薬局は生活の近くで支えるゲートキーパーだ」。宮川薬局長の専門性を高めた薬局づくりが動き出している。



1本の電話が、患者さまを守る
体調変化や不安を丁寧に



外来でがん化学療法を受ける患者さまが増える昨今。抗がん剤治療は中断しないことが重要であり、副作用の発現をコントロールすることが薬剤師の大きな役割の一つとなる。吐き気、下痢、しびれなど自覚症状のあるものは患者さまへの問診を丁寧に行い、支持療法薬の使用状況などを医療機関に共有する。特に、次の受診までの日常生活における体調変化の聞き取りが重要だ。1本の電話やLINEが命を守ることに繋がる。

医療機関と薬局、双方が
使いやすいフォーマット作り



トレーシングレポートは、独自のフォーマットを作成。患者さまからヒアリングした服薬状況や副作用の有無は、抗がん剤の減量や支持療法薬の増減・変更を活かされることもあるため、医師が治療計画に必要な薬剤情報を端的に把握できるように工夫している。また、誰もが使いやすいフォーマットにすることで、がん領域を専門としない薬剤師も一定のレベルが身につくようになり、薬学ケアの質の向上に取り組んでいる。

地域の核となる薬局として、
地方へつなぐ



急性期治療後、症状が落ち着いた患者さまは居住地の医療機関に戻るケースも多い。地域薬局として患者さまの近くでサポートしたいという想いから、北大前店では、各地のなの花薬局や他薬局と連携するなど、地域の核となる薬局としての機能も果たす。地元に戻る患者さまからは「病院から少し離れても、なの花薬局にしたい」と嬉しい言葉をいただくことも。各地のレベル向上を図るため、オンラインによる「がん勉強会」も実施。



専門性を磨く。
いつもの日常生活を
送る喜びを
届けたいから。

なの花薬局 北大前店 薬局長
宮川 文史 Takeshi Miyakawa
2013年入社

私の就職活動当時は、薬剤師の職能拡大が推進され始めた頃で、薬局業界の現状を変えたいという気持ちと、なの花薬局の「地域薬局」という考え方が好きで、この会社で活躍してみたいと思志望しました。入社後は札幌、小樽、千歳などで5店舗を経験、4年目に薬局長となり、現在の北大前店は薬局長として2店舗目になります。北海道大学病院の門前である北大前店は、高い専門性と実経験が求められる店舗。患者さまから「この薬局なら安心できる。この薬剤師から薬の説明を聞きたい」と思っていただけの薬局づくりを目指しています。店舗には外来がん治療認定薬剤師の資格を持つ薬剤師もいて、薬局内で独自に症例

検討を行ったり、社内では「がん勉強会」を実施し、どの店舗の薬剤師も一定の知識が得られるよう勉強の機会を設けています。また、患者さまには待合中の聞き取りや、日常生活における体調変化や副作用の有無を細やかにフォローしています。患者さまは様々な不安を抱えていらっしゃいますので、生活環境や心情に寄り添い、病気だけでなく“人を診る”ことを大切にしています。そして、専門性を磨くことで生まれる自信を込めた想いが、患者さまの安心と変わらぬ日常生活を過ごせる喜びにつながると信じています。今後も医療機関との連携や地域の核となる薬局として薬局薬剤師の職能を広げる取り組みにも力を入れていきたいです。



1年目・なの花薬局札幌北3条店
新人研修後、札幌市中心部にある札幌北3条店に配属。良い先輩がたくさんいる明るく楽しい店舗でした。写真は、当時、自己紹介用に撮ったもの。



2～3年目・フォローアップ研修
2年目は南小樽店、3年目は千歳店に配属。小樽では高齢者や地域に根ざした薬局づくりを、医療モール型の千歳店では患者さまのかかわり方や薬局運営について学びました。



4～5年目・在宅委員会に加入
薬局長に就任し、地域薬局を自分で作る立場に。医師や多職種、地域とかかわりながら在宅医療への取り組みを開始。在宅委員会に加入し、最前線で働くメンバーから学ぶことができました。



6～7年目・がん領域の専門薬剤師を目指す
北大前店へ異動。がんや高度医療に対する知識不足を痛感し、勉強を開始。自己研鑽のため、社内外の勉強会などに参加、がん領域の専門薬剤師を目指す。



8～9年目・病院研修
病院との連携を強化。循環器カンファレンスなどへの参加から興味を持ち、「心不全療養指導士」を取得。さらに「外来がん治療専門薬剤師」を目指し病院研修へ参加。



10年目・専門性を高める
病院研修を経て、さらなるがん領域への専門性を高めている最中です。また、店舗では「専門医療機関連携薬局」を目指し、独自の取り組みも進めています。

TOPICS



会社のキャンプサークル!
北海道は雄大な景観が魅力のキャンプ王国。個人的には秋キャンプが好きですね。近頃は後輩が準備をしてくれるので、もっぱら「飲み係」です!



身近な「地域薬局」
だからこそ、
管理栄養士の専門性を
生かして貢献したい。

なの花薬局 北大前店 管理栄養士
菅原 由季 Yuuki Sugawara
2018年入社

食事の悩みや不安を抱えていても、どこに相談してよいのかわからず、意思表示ができる場所は少ないと感じています。「地域薬局」であるなの花薬局は、患者さまや地域の皆様に身近で、健康についての不安や疑問を気軽に相談できる場所。皆様の健康的な生活に貢献できるよう、一人ひとりに寄り添った栄養指導を心掛けています。血糖値や中性脂肪の検査数値をはじめ、減量、食事の栄養バランスなど日頃気になっている事を、幅広い層の方に相談いただけるのは嬉しいです。また、薬剤師と連携し、食事療法の必要な患者さまには、個々に合わせた栄養指導を行っています。患者さまと会話を重ね、服用しているお薬を

考慮しながら栄養指導を行った結果、検査数値が改善したり、お薬を減らすことができた時は達成感を感じます。「食」は命を支えるものであり、食べる楽しみが患者さまの気持ちを前向きにします。調理が難しい場合は市販品を上手に組み合わせるなど、患者さまの生活環境を理解し、取り組めることを一緒に考えて提案しています。私たち管理栄養士が考案したレシピは、栄養相談で提供したり、店舗内外で情報発信していますが、「今度やってみるね」と言っただけだと嬉しいです。薬局管理栄養士の存在を多くの人に知ってもらい、なの花薬局が地域の健康ステーションになるよう活動していきたいです。



店舗での栄養相談

担当エリアの店舗を巡回し、予約に応じて栄養相談・栄養指導を行います。外出や来局が難しい方には電話やメールなど対面以外の需要にも対応。検査数値の確認や食事療法の説明など個々に合わせたアドバイスをします。



OTC・健康食品販売の促進

健康食品やサプリメント、治療用特殊食品といった商品の販売促進や、食生活改善指導に健康食品等を活用したアレンジレシピなどを紹介。また、社内のOTC委員会活動で商品知識を高め、店舗へ商品の取扱や陳列施策を提案します。



薬剤師との連携

店舗内での栄養相談内容の申し送りや、薬剤師が行う医師へのトレーニングレポート提出の際、必要に応じて栄養指導報告書を作成します。医師からの指示に基づき指導した場合も、栄養指導報告書を医師に提出します。



資料作成・配布物の制作

栄養相談で使用する資料を作成したり、未病・予防、健康増進に役立つ店舗配布ツールなどを制作。見る人の興味を喚起し、有益な情報が得られる効果的なツールになるよう各自工夫を施しています。



未病・予防に向けたレシピ作成・試作

減塩、カロリーダウンなどカテゴリ別にオリジナルの健康レシピを開発しています。栄養相談時にメニューを提案したり、なの花北海道ではレシぴリーフレット「なの花健康ごはん」の作成やクックパッドにレシピを投稿しています。



健康イベントでのアドバイス・栄養相談

薬剤師や自治体と連携し、地域住民の未病・予防・健康サポートを目的とした「健康フェア・健康相談会」を開催しています。健康測定機器を活用したアドバイスや栄養相談、健康食品の紹介のほか、食や栄養に関する講話なども行います。

全国の
多様な地域性に対応する、
「まちのあかり」を
実践する人材育成

執行役員
薬局事業本部 薬局教育部長 薬剤師
安江 美由紀 Miyuki Yasue



グループ理念である「まちのあかり」に込められた意図を継承し、「全国全店舗に「まちのあかり」を実践できる人材を育成する」。

これが、なの花薬局の教育研修の根底にある考え方です。

具体的には、教育の地域差をなくし、ダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（包括）の考え方を取り入れています。教育研修におけるダイバーシティとは、個々の能力を伸ばす成長機会を多様に提供すること、そして、年代や階層に関係なく互いの能力を活かしあうことを目指すものです。

私たちは、全国の多様な地域性に対応する「地域薬局」です。実践的能力、コミュニケーション能力、医療マインドを高めながら主体的に課題の改善に取り組み、多様な知識と経験を患者さまや多職種に還元できる力を育みます。さらに、インクルージョンの観点では、知識や技能をインプットだけでなく、社内研修・社内講演といった発表の場でアウトプットし、多様な仲間とともに成長・活躍できる環境づくりに力を入れています。

全職種共通



新人研修

参加者全員へタブレットを貸与し、全国に広がる同期と一緒にオンラインで実施。医療人としての心得やコミュニケーションスキルなどを身につけ、社会人・医療人としても第一歩を踏み出す準備を整えます。オンラインならではの効果的な研修を開催します。

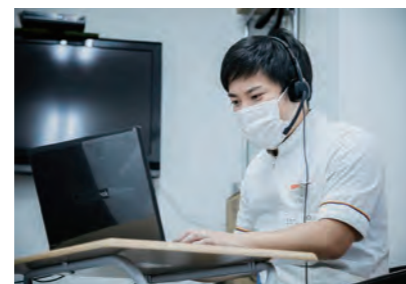
全職種共通



なの花フォーラム

医療の質向上や業務改善を目的に、グループ全社の全職種が集い年1回開催。自店舗における活動や業務改善の報告を相互に発表しあうとともに、日頃の研究成果を発表し、学会・学術発表につなげる第一歩としています。

薬剤師対象



臨床系認証研修

薬剤師教育制度であるCP Step制度と連動したオンライン型研修です。全国各地の経験豊かな社内外の先輩が講師を務めます。研修を修了すると現場ですぐ実践できる構成になっており、講師・受講者双方のアウトプットの場にもなっています。

薬剤師対象



ポートフォリオ

日々の臨床から気づきと学びを深め実践に繋げることを目的に、4年目までの薬剤師に導入している教育プログラムです。対応した事例について、トレーナーとのディスカッションを通して振り返りと深掘りをする事で、問題解決力の向上と気づきを促します。

さっと読み込んで、知りたい情報へ



なの花薬局について

メディカルシステムネットワークグループの事業領域と、なの花薬局の想いや地域ニーズに応えるための店舗形態・特徴についてご紹介



なの花薬局の取り組み

一人ひとりに寄り添う地域薬局として。真に頼られる「まちのあかり」として。なの花薬局は様々な取り組みを通じて、地域に根ざした医療サービスの提供を行っています



在宅訪問の取り組み

「住み慣れた環境で自分らしく過ごしたい」。その想いに寄り添い、薬のプロとして地域の在宅医療を支える在宅訪問の取り組みをご紹介します



数字で見るなの花薬局

「数字」からひも解く、なの花薬局のあれこれ。強みや特徴が一目瞭然となる最新データを集めています



教育研修制度

薬剤師としての基礎スキルを身につけながら、さらに専門性を高める研修、マネジメント教育まで、興味のある分野を伸ばせる教育研修制度が整っています



選べるキャリア

薬剤師としてキャリアアップを目指すのは同じ。けれど、夢や目標、ライフスタイルは人それぞれ。全国展開だからこそ、一人ひとりのキャリアプランに応えるフィールドがあります



福利厚生

自分らしく安心して働けるように。スキルアップや生活の質を高める各種手当をはじめ、ライフステージに合わせたサポート制度など、福利厚生が充実



社員紹介

なの花薬局の薬剤師・キャリアスタッフ、人事部スタッフをご紹介します。先輩社員からのメッセージをお届けします



医療事務

地域の人々と関わりながら健康を支え、薬のプロフェッショナルから頼りにされる。全国展開の「なの花薬局」なら、ライフステージに合わせて活躍することができます



日々、最前線で奮闘されている
薬剤師の皆さん、医療事務の皆さん、管理栄養士の皆さん。
皆さんが力を合わせ、命と健康にまっすぐ向き合ってください。その思いが、
私たちの日常生活を支えているのだと感じています。

ちかきにいる、というバシ強さと安心感。
患者さまに寄り添い続ける使命感とあたたかい心。
「まちのあかり」として、
人々の暮らしと健やかな毎日を支え、生きる喜びを ともしてくれる存在。

私も、誰かのバシを ともす存在になれるよう頑張ります。
これから医療の道を進む皆さんも、理想とする医療従事者像を 目指して…
どうか 力強く未来へ踏み出してください。応援しています!!

福地 桃子



一人ひとりの、あかりになる。

頼れる、あんしんを。心ともる、あたたかさを。

なの花薬局は、まちのあかりへ。



なの花薬局

株式会社メディカルシステムネットワーク

本社 / 〒060-0010 北海道札幌市中央区北10条西24丁目3番地 AKKビル TEL:011-612-1069

仙台事務所 / 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2-11-1 オルタス仙台ビル2F TEL:022-778-1188

東京事務所 / 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番18号 ヒューリック虎ノ門ビル8F TEL:03-5532-1323

名古屋事務所 / 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目23番20号 HF桜通ビルディング5F

大阪事務所 / 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1丁目5番3号 千里朝日阪急ビル13F TEL:06-6873-0002

福岡事務所 / 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜4丁目17番22号